

にしとべの丘

あき ゆうぐ
秋は夕暮れこうちょう いしかわ ひろし
校長 石川 博

紅葉の便りが聞かれるようになり、すっかり秋の様相となりました。10月12日に行った N&N ふれあい文化祭のステージ発表にはたくさんの保護者の方に来ていただき、ありがとうございました。西前小6年生のみなさんもすてきな合唱をありがとうございました。私たち教職員も生徒の活躍する姿を見て成長を感じることができました。

さて、秋といえば、清少納言が言うように「夕暮れ」(※1)です。放課後、校内を回ってみると、生徒の顔に西日が差し、なんとも美しい姿だと感じます。グラウンドで活動している陸上競技やサッカー一部の生徒も西日をあびて、神々しいとは言い過ぎにしても、とてもすてきです。屋上から見える(生徒の皆さんは1年1組の廊下から見てください)オレンジ色の空に映える富士山のシルエットは絶景です。藤原清輔のように(※2)、「秋の朝もこんなにいいではないか!」と清少納言に抵抗した人もいましたが、やっぱり「秋は夕暮れ」です。

夕日に映る風景を見ると、懐旧、望郷、郷愁、追想、追憶…。どれも当たっているようで当たっていない感情が湧き出てきます。音楽でいうと「ヨナ抜き音階(※3)」というやつです。

ソソラソソソミ ドドレミレー… とか「ゆうやけこやけで ひがくれてー…」とか「ゆうやけこやけーのあかどーんーぼー」とか、外国でいえば下校の音楽でおなじみの『新世界より』の第2楽章(ミソソー ミーレドー レーミソミレー)ですね。どうですか?懐かしくあたたかい気持ちになりませんか?

文化祭が終わり、学校は日常に戻りました。しかし、11月半ばから中間テストがあり、3年生は卒業までバタバタと時を過ごすこととなります。この、その前のこの時期にゆっくりと夕焼けを見る時間があってもいいのではないのでしょうか。それくらいの余裕はほしいですね。

※1 秋は夕暮れ 夕日のさして山の端いと近うなりたるに… 『枕草子 第一段』

※2 薄霧の籬の花の朝じめり 秋は夕べと誰が言ひけむ (『新古今集』藤原清輔)

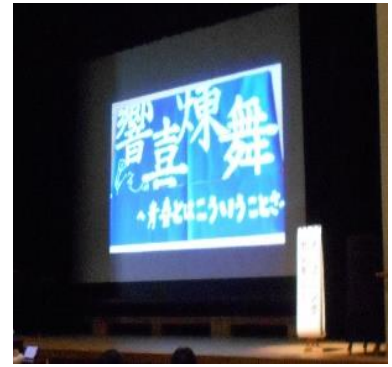
※3 ヨナ抜き音階: ドから始まる音階の4番目のファと7番目のシを抜いて曲を作ると懐かしいような、あたたかいような感じの曲になる。



N&N ぶんかさい ふれあい文化祭

【合唱の部・ステージ発表の部】

10月12日(木)西公会堂にて「N&N ぶんかさい 文化祭 合唱の部・ステージ発表の部」を行いました。西公会堂での文化祭は、4年ぶりとなります。オープニングセレモニーは各クラスの練習風景のスライド上映や生徒会による寸劇など。会場は文化祭にふさわしい華やかな雰囲気につつまれました。



セレモニーのあとは、いよいよ合唱の部のスタート。今年度は久々に西前小学校の6年生も参加しました。西公会堂で最高の歌声を響かせたい、そんな強い思いをもって、生徒たちはこの日まで練習に取り組んできました。そして迎えた本番。これまでの練習の成果を發揮し、どのクラスも美しいハーモニーを響かせていました。歌い終わり、ステージを降りてくる生徒たちは達成感と安堵感で、みんな笑顔でした。

クラス	発表曲
1年1組	地球星歌
1年2組	COSMOS
2年1組	ヒカリ
2年2組	君と見た海
3年1組	未来
3年2組	証



合唱の部に続いて、ステージ発表の部です。

3年体育科ダンス、有志2団体(ピアノ、ダンス)が発表しました。軽やかなステップで踊るダンスとリズムカルな音色を響かせるピアノの連弾に、会場は大いに盛り上がりました。ステージ発表の部、最後は吹奏楽部の演奏でした。3年生の部員にとっては、これが最後の演奏となりました。会場のアンコールにもこたえ、文化祭合唱の部、ステージ発表の部を見事に締めくくりました。



【展示の部】

9月30日(土)から10月13日(金)まで、1階ホールで文化祭作品展示を行いました。朝の西中タイムでは、学年ごとに作品鑑賞の時間をとりました。授業や部活動で作成した作品が展示され、どれも素晴らしい作品で、クイズやマンガでも楽しむことができました。





コラム「食で学ぶ 食を学ぶ」11月号

元横浜市教育委員 長島 由佳

紅葉の便りが北のあちらこちらから聞こえてきます。その彩りは標高の高い山から徐々に麓の方に移ってきます。これから横浜の街中でも赤や黄色に色づく木々に出会えることが楽しみです。

先日、私が審査委員長を務めている『横浜の子どもがつくるお弁当コンクール』の最終審査がありました。夏休みに取り組めるように夏休み明けが応募締め切りです。9月上旬にスタッフとともに1200ほどの作品の予備審査をはじめ1割ほどに絞ります。9月下旬、30名を超える審査委員による1次審査を経て、絞られた15名の児童生徒が自ら作ったお弁当を持参して、最終審査が行われました。今回のテーマは、「2027年開催される横浜国際園芸博覧会で食べたいお弁当を作ろう」でした。加えて地場野菜などの活用も盛り込んだため、横浜の野菜や果物・肉や海苔だけではなく、自家製梅干しや自宅や離れて暮らす祖父母の家庭菜園の野菜（応募時）などの身近な地産地消をうたった作品も多く応募され、家族の温かい見守りや交流を感じることができました。

日頃からキッチンに立つ児童生徒ばかりではなく、初めてのお弁当作りで何回も卵焼きに挑戦したり、鶏の照り焼きが固くならないように工夫を重ねたり、お花畑に見立てるための配色や食材選びへの試行錯誤などが語られ、審査に関わったもの達の胸を熱くするシーンが何度もありました。

お弁当という小さな箱の中にはたくさんの想いとストーリーがあります。日々中学生が持参するお弁当のたまご焼き一つをとっても、甘い方が好きだから、彩りとして美味しそうに見えるからなど「作り手」の「食する人」への想いが綴られた宝箱です。日本のお弁当文化の素晴らしさを改めて感じる1日となりました。

さて、11月28日(火)には西中において給食試食会が開催されます。横浜の「食」に対する大きな取り組みです。横浜で学ぶ全ての子ども達に対して、「食」を通じて感じ学ぶことができる公教育のおける最大の取り組みを私たち大人が感じ取れる良い機会となります。横浜の子ども達が、自らの健康や食を考へる場作りを続ける者として、試食会に同席させていただき、一緒に楽しみたいと思っています。取り組む人は違っても、子ども達への愛情は一緒なのだとして「食」で語れる時間になることを期待しています。

簡単ちょっと贅沢さつまいもご飯



材料：米2合(300g) A(塩1小さじ 酒1大さじ 醤油2小さじ)

サツマイモ150g 油揚げ1枚 椎茸1~2枚 明太子またはたらこ少々 塩昆布少々

作り方：①米は洗って、Aとともにおかまにセットする。

②サツマイモは5mmの薄切り、油揚げは半分にカットして5mmの短冊切り、椎茸も薄切りにし、①の米の上のせて炊飯する。

③炊飯している間に、明太子またはたらこを焼くか電子レンジで30~40秒ほどで火を入れ、塩昆布と和える。

④炊き上がったご飯に③の海の幸をのせて振りかける。おにぎりにする場合は混ぜ込むと塩分が引き締まり美味しい。